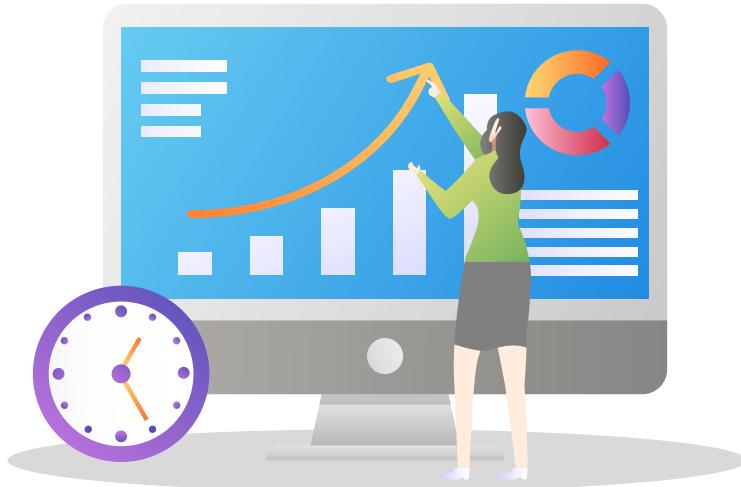


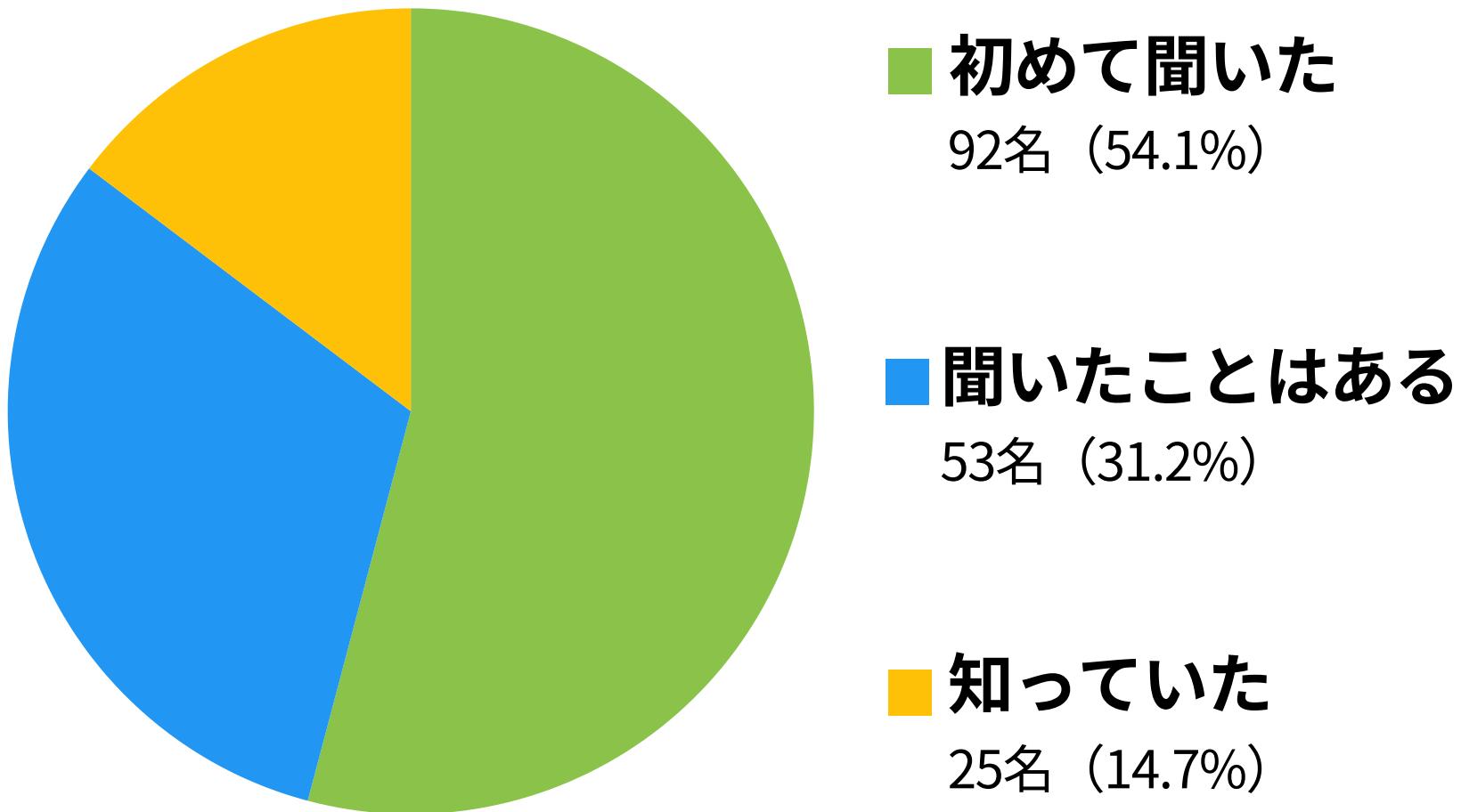
京都女子大学セミナー アンケート結果レポート

動物福祉に関する学生の意識と行動の変化

主催：アニマル・ドネーション
実施対象：京都女子大学 受講学生
回答数：170名

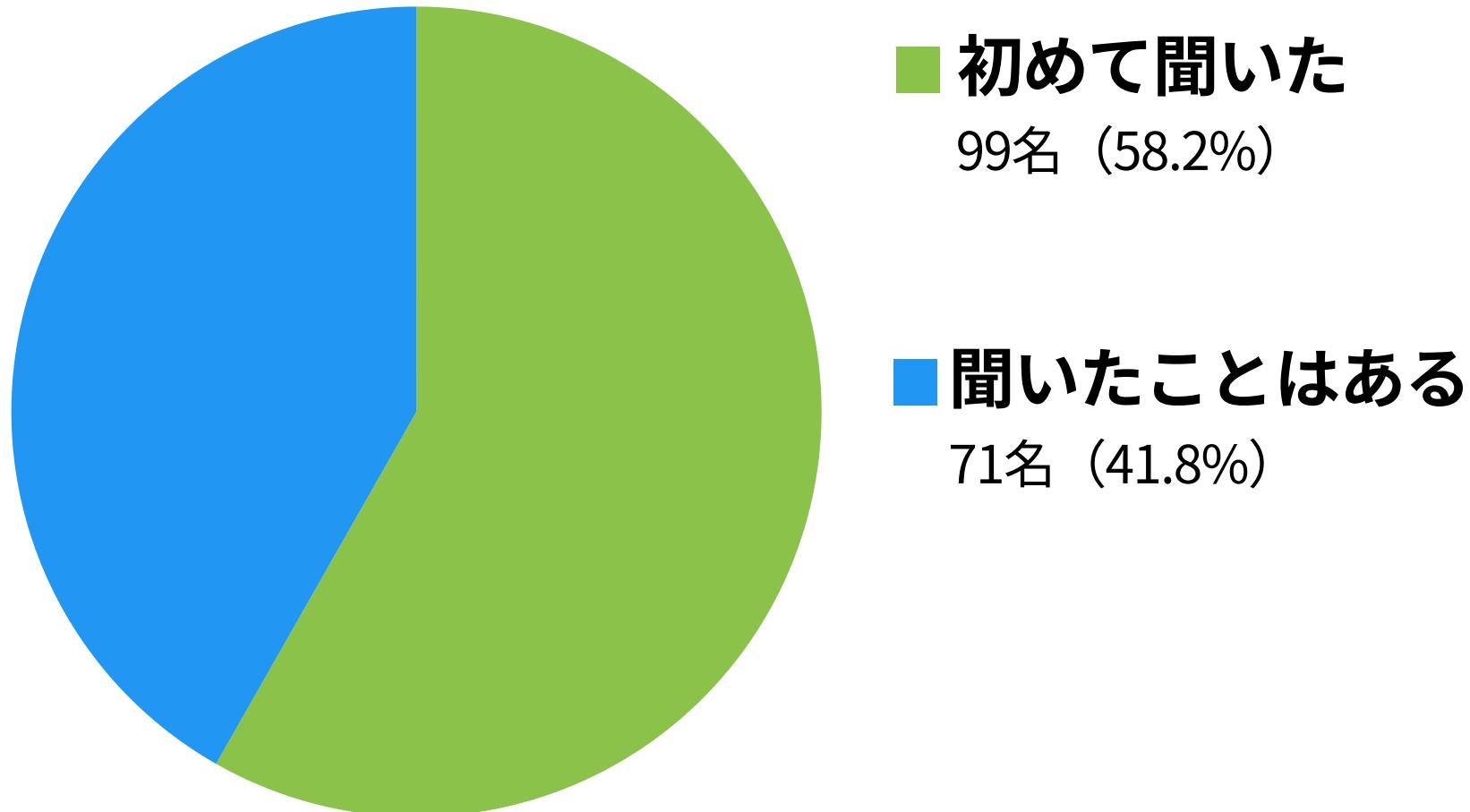


動物福祉という言葉の認知度 (N=170)

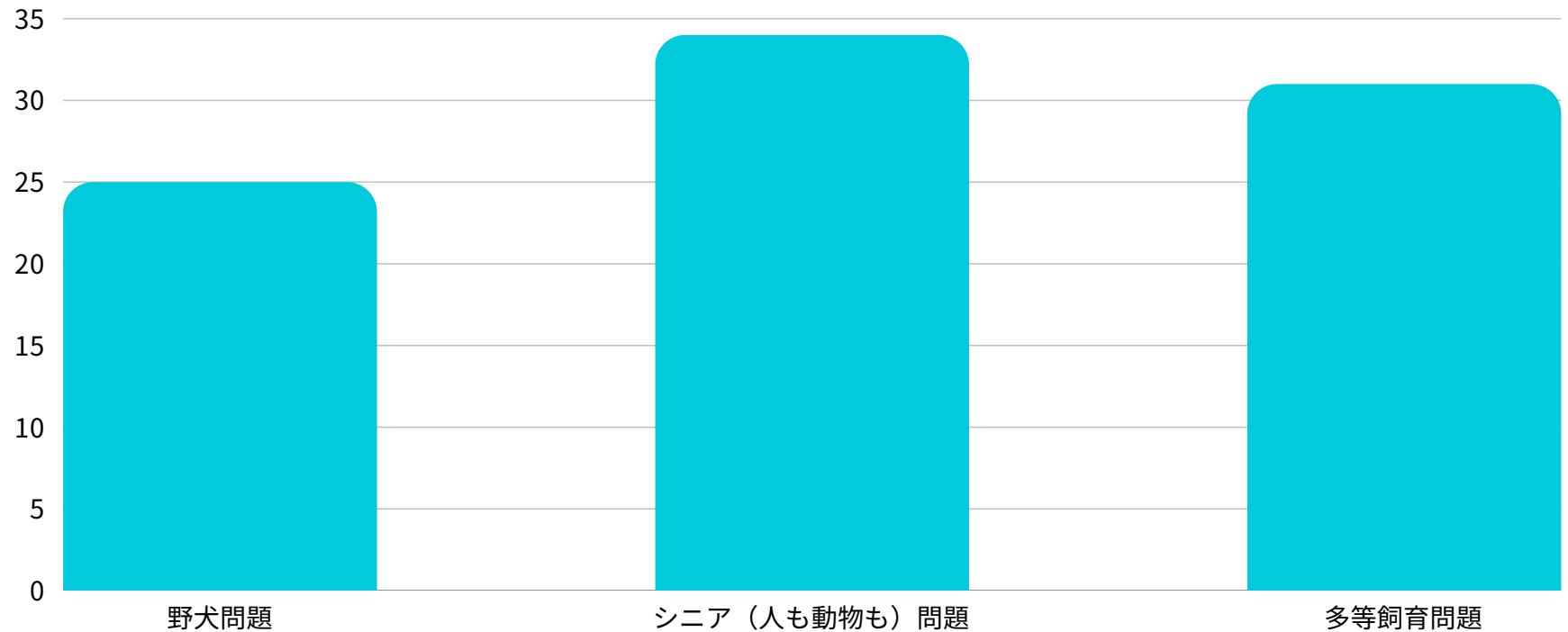


3つの問題を感じたことがありますか？ (N=170)

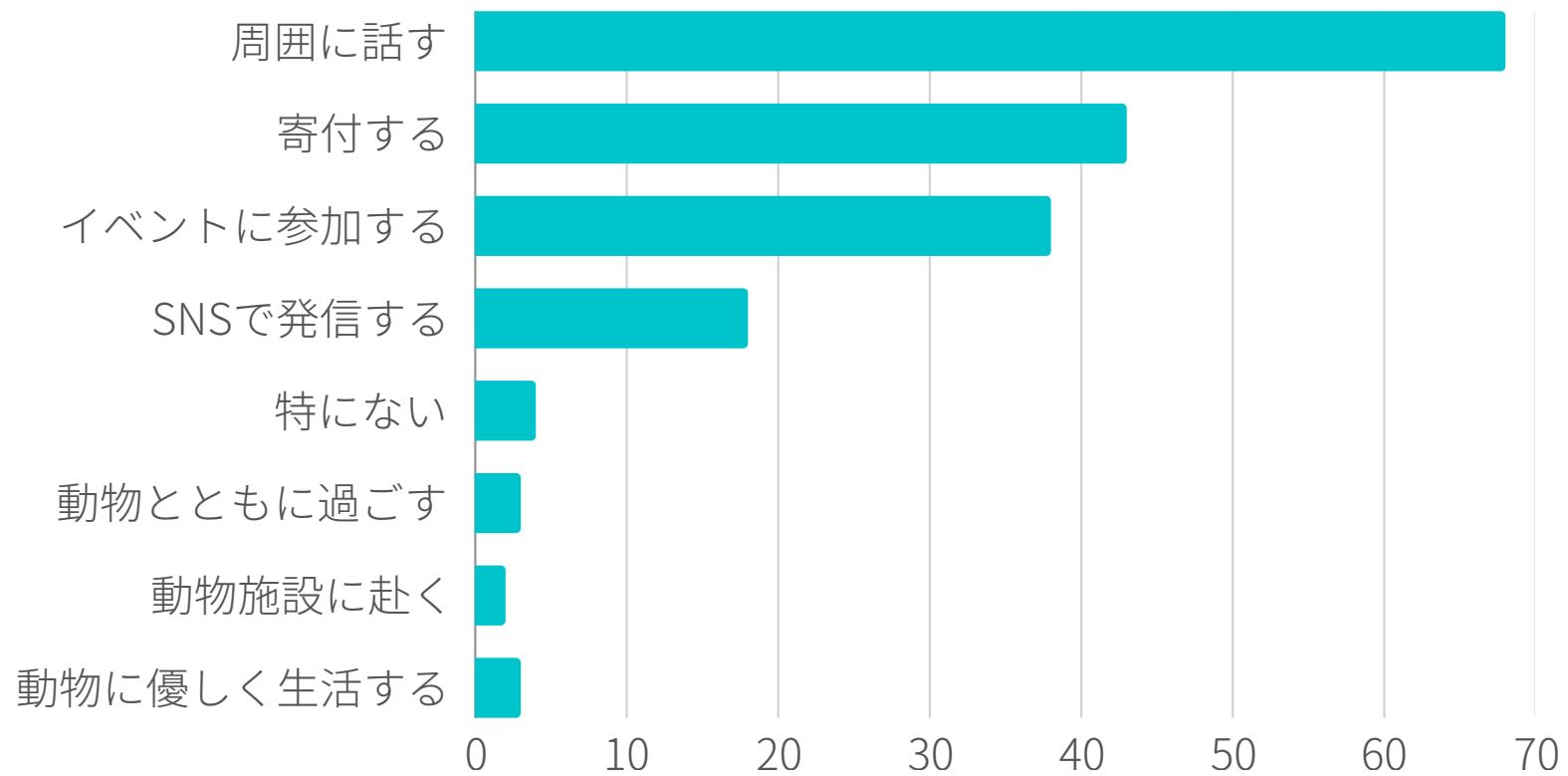
※本調査で扱った「3つの問題」とは、
「野犬問題」「多頭飼育崩壊」「シニア（人と動物）問題」を指します。



身近に感じた問題の種類（複数回答） (N=170)



これから自分にできそうだと思う行動 (N=170)



学生の印象的なコメント

- 私は動物がとても好きというわけではないため、正直動物保護活動等は、動物を好きな人が取り組むものだと思っていた。しかし今回の講義で、動物はペットではなく人間と同じ存在だと深く理解したことで、人間全員がこの動物問題に関わる必要や義務があると学びました。また特に、飼育知識の欠如という問題が印象的でした。動物を飼育をする際は、気軽な気持ちで買うのではなく、本当にこの子を守ることができるのか、共に生き続けられるのかを意識し、覚悟して迎え入れなければならない、という認識が広まることが今の日本で最も大切だと思いました。
- 講義を聞いて、今そばにいる愛犬との時間をもっと大切にしようと思いました。動物は人間のように言葉を使えないからこそ、私たちが環境や健康に気を配る必要があります。「感受性・健康・環境を整えるのは人間の務め」という言葉を聞いて、飼い主の責任の重さを改めて感じました。愛情をもって最後まで寄り添うことが、何よりの恩返しだと思いました。
- ペットブームが頻繁に生じる昨今だからこそ、ペットの取り扱いを行う企業から率先的に生命倫理を説く必要があると思う。
- ただ動物が好きという気持ちだけで何か行動を起こしていいものなのかと思います。動物にかかわるというのは命に責任を持たなければならないし、多頭飼いしてしまう飼い主も最初はこんな気持ちは持っていたと思います。私は幼いころから動物が好きで動物に携わる仕事に就きたいと思っていました。しかし命に関することなので途中でやっぱりやめたとかはできないし、好きなことを仕事にすることで嫌いになってしまうのが怖くて無理なのかなと思いました。しかし今回の話をきいてやっぱり私は動物が好きだと感じました。そして動物に携わる、動物が幸せになる手助けができる仕事をしたいと思いました。
- アニマルドネーションのサイトを見てみると、とてもかわいい犬や猫の写真が載っていて和みました。